

総務省 ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会  
【東海・地域懇談会】

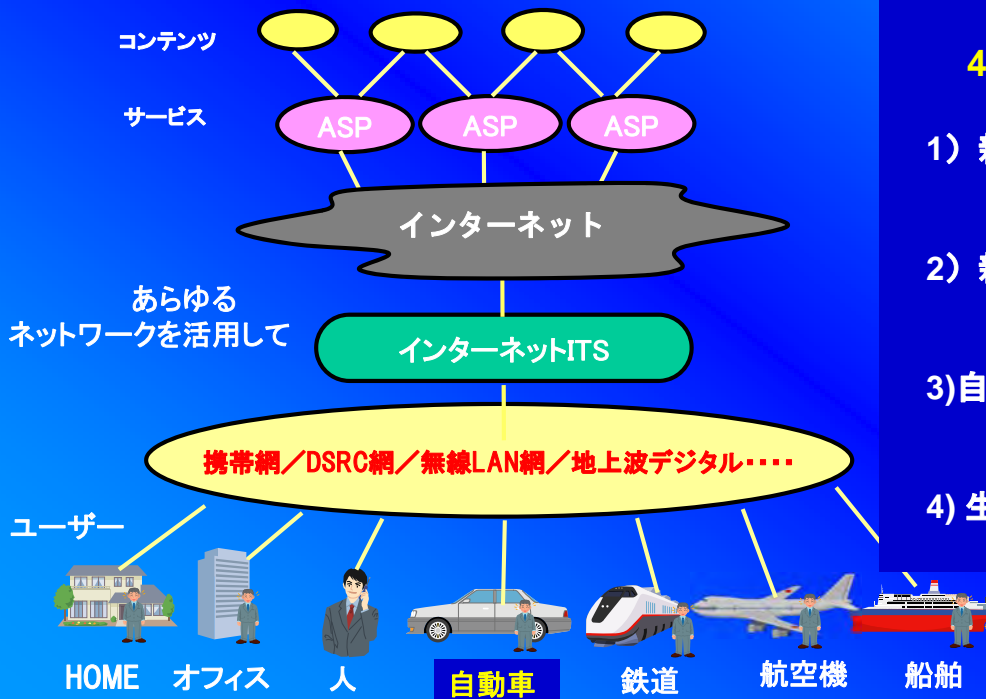
進化するICT技術の交通への適用  
～新たな技術・サービスによる地域への貢献～

株式会社 IIC 代表取締役  
インターネットITS協議会事務局長  
時津 直樹

## 1. インターネットITSの紹介

### 2002年 全自動車のネットワーク化を目指してスタート

目指す世界:いつでも情報にアクセスできる世界を創る



### 自動車ネットワーク化

#### 4つの狙い

- 1) 新しい情報市場の創出
- 2) 新しい価値の創造
- 3) 自動車産業の国際競争力確保
- 4) 生活の質の向上

全車ネット化の産業的な意味は 1) 新規巨大情報マーケットの創出

3つの巨大情報市場の融合で新情報市場を創出できる



- ・自動車は社会活動のあらゆる場面での基盤・・・移動・物流・生活
- ・手つかずの情報マーケット・・・カーナビのみ
- ・自動車のICT化は・・・日本は最適な環境  
通信環境・市民のICTレベル・経済力

全車ネット化の自動車進化の視点では 2) 新しい価値創造



# 全車ネット化の自動車産業の視点では 3) 国際競争力の確保

高級車には  
100のコンピュータ → 100のソフト資産

今後、ICT融合で  
更にソフト資産が創出される

参照:PCモデル(USA戦略)

ハードは途上国へ

ソフトとコアチップは  
戦略商品として確保



日本の取るべき戦略は

- 自動車ICT融合技術の開発を加速 ... ネットワーク化を加速
- 世界に先行しての社会実装 ... “理想社会”モデルを
- 標準化戦略への注力 ... 日本が主導すべく
- 海外への展開 ... ハードは外でもソフトは死守

自動車ICT融合は国際競争力確保への戦略となりうる

# 全車ネット化の市民の目線では 4) 生活の質の向上

文化的で快適な

ファッションが出来る“社会”

- <視点>
- 文化創生
  - ファッション産業メッカ
  - 生涯ファッション
  - 教育連携(産学)

安全で健康的な

食生活が出来る“社会”

- <視点>
- 安全な食料産業
  - 海・山・平野温帯の食産
  - 食文化の輸出
  - 生モノ・コング・手羽・松坂肉・

安心して

住む事が出来る“社会”

- <視点>
- 名古屋中心の居住圏構造
  - 快速高鉄利用した
  - エネルギー
  - 震災に強い
  - 移住したくなる



生きる

から

生きる

ICT連携によって  
全生活空間の連携と  
質の向上が可能

誰でも何時でも

繋がりあう事が出来る“社会”

- <視点>
- ICT文化
  - 高齢化対応(介護・独居)
  - 生涯教育
  - 教育連携(産学)



誰でも何時でも

移動する事が出来る“社会”

- <視点>
- 自動車交通・交通流
  - 公共交通(Japanセンタ)
  - パーソナル移動
  - 高齢者、弱者対応
  - 物流
  - 環境、エネルギー



「生活ITS」

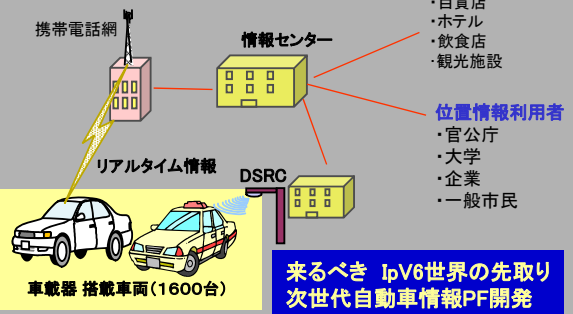
全シーンの基盤としての自動車のICT融合化を推進する



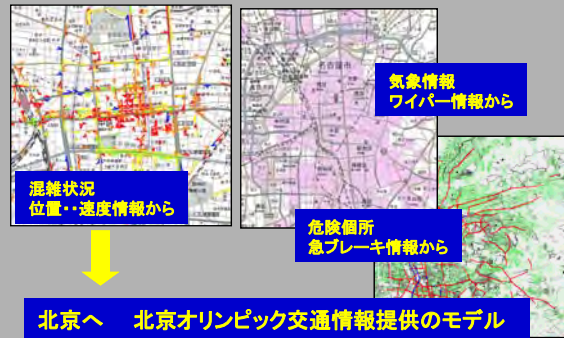
## 2. 具体的な活動 1) 中部地域で今迄やってきた事

2002 インターネットITS名古屋

2004 ITS世界会議名古屋



2003 プローブ情報システム



2005 インターネットITS通り(愛知万博)



2007~ 車載IT活用救急医療支援(岐阜)



## 2) 車載情報プラットフォーム整備



自動車のネットワーク化

乗用車: 通信型カーナビ  
商用車: 専用システム

一台で何でも出来る車載システムを開発



汎用性と経済性を両立させた自動車ICTプラットフォーム開発を

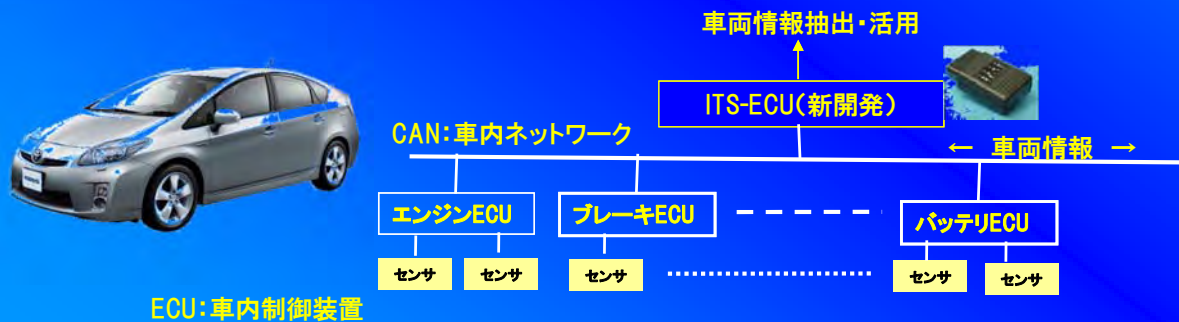
### 3. 最新の開発・整備状況

#### ① 車両情報の安全な収集・活用構造の開発

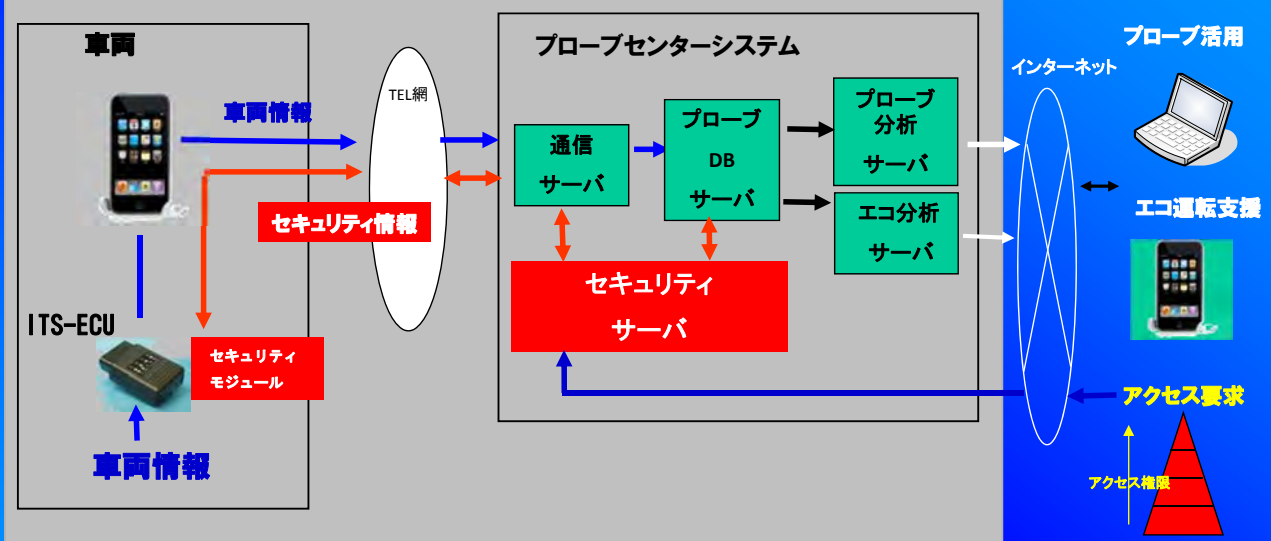
自動車は価値のある情報の“宝庫”（移動するセンサー群）  
 車両情報の活用で新しい社会価値の創出が出来る

- 次のITSはプローブシステム ... 全国の自動車をインフラ活用
- エコ運転支援 ... 実際の運転とエコ関係見える化
- スマートコミュニティ ... エネルギー社会と連携
- スマートフォン連携 ... 簡単に車載情報システムが等々

開発：安全に車両情報を取り出し活用する仕組みを整備した



#### 車両情報収集・活用構造



スマートフォンを活用し  
 安全に従って車両情報を取り出す構造



## 4. 次のステップへ

自動車を活用する為の基本的な要素・条件は整った



次は地域・街・人を良くする為の“実装”を行う

### 具体的な計画

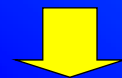
- ① スマートフォンITSの普及
- ② 自動車ビッグデータを基盤とした新サービス創出
- ③ 防災に強いハイブリッドネットワークの構築

## ① スマートフォンITS



車両情報を活用した  
スマホアプリの開発・流通構造を提供

- ・安全で信頼出来るアプリ
- ・B2Bでも活用出来る
- ・アプリが流通出来る仕組み



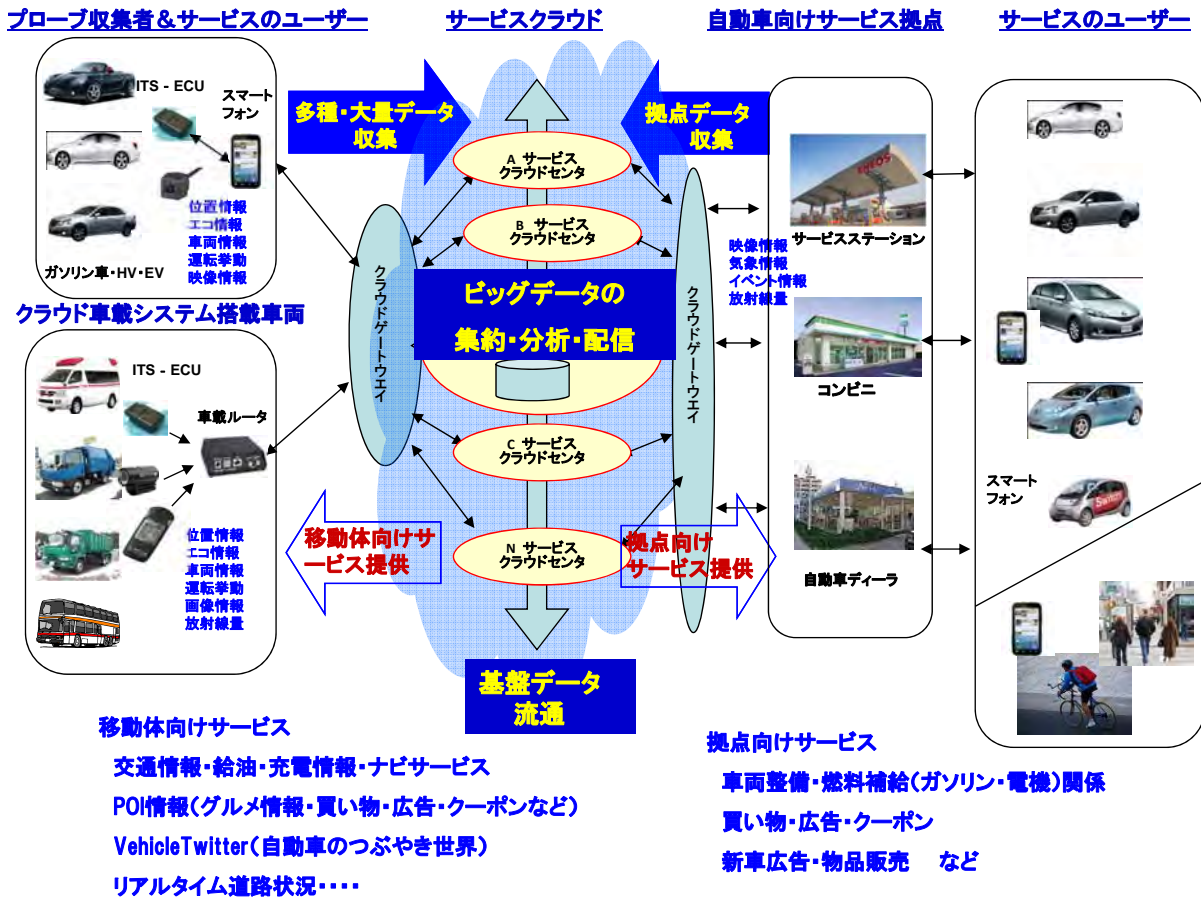
スマートフォンITSコンソーシアム設立へ

- ・開発環境の提供
- ・流通構造の提供

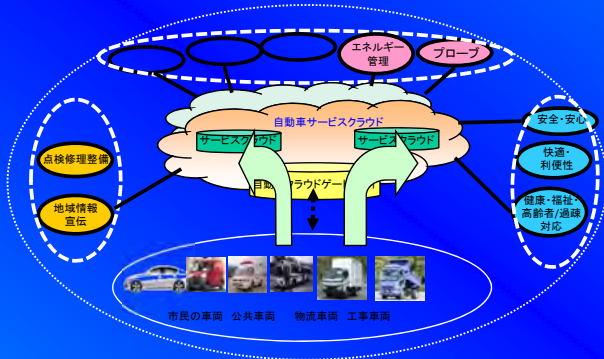
ソフトベンダーがビジネス出来る仕組みを



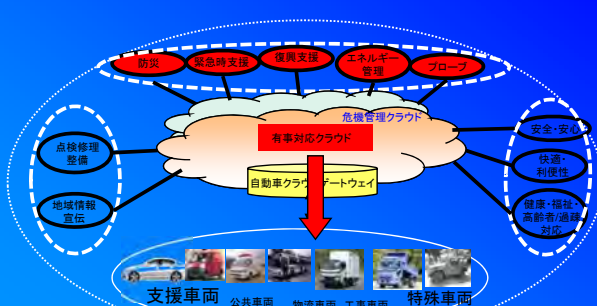
## ② 自動車ビッグデータを基盤とした新サービス創出



### 平時の場合の自動車クラウド



### 有時の場合の自動車クラウド



こんな世界を実現したい！

様々なユーザ(車)が  
自由にサービスを楽しむ世界

一瞬で切り替わる  
ハイブリッド世界

全ての車を  
危機管理の戦力に併合する世界

震災  
復旧  
復興

指揮管理系統の一本化  
東海地方に必要！



## 5. まとめ

自動車をネットワーク化するための条件は整った状況

- ビジネスモデル …… 自動車のネット化は市民合意(いつでも、、、)
- 車載ICTシステム …… スマートフォン・タブレット等の汎用機器
- 通信システム …… 高速・定額・常時接続

### 今後の課題

- ・ 市民巻き込んだ大規模実証で“合意の形成”が必要  
自動車社会の代表としての中京圏に「日本の街モデル」を
- ・ ビッグデータを基盤とした社会モデルの開発を  
自動車からのリアルタイム・多種・大量情報の集約構造を構築し  
クラウドでの市民サービス創出を
- ・ グローバル展開へ  
“世界に先行した新しい社会を提示”し「社会の輸出」を

まさに“今”がチャンス。日本総がかりで新しい街づくりをしたい